国際交流基金助成事業報告書

薬学部　１年次生　薗田　珠実

１．はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、平成 28 年７月 31 日から８月 27 日の４週間、フィリピンを訪問しましたので、報告いたします。滞在期間中はセブにある CIA(Cebu International Academy)という語学学校で英語を学び、８月 20 日には現地でボランティア活動をしました。

２．CIA(Cebu International Academy)

私が通っていた学校はセブの中心地にあり、徒歩圏内に大きなショッピングモールがありましたが、敷地内に授業を受ける建物・学生寮・食堂があったため、平日は必需品の買出しがなければほとんど外出することはありませんでした。生徒のほとんどが日本・韓国・中国・台湾・ベトナム・サウジアラビア出身であり、年齢の幅は広かったです。

月曜日から木曜日は、朝７時 20 分から単語テストを受け、８時から 18 時まで、50 分授業を合計 10 コマ受講し、金曜日は１コマ 45 分授業で、放課後にスピーチコンテストやスペリングコンテスト・創作ダンスを発表する talent show などのアクティビティを行いました。単語テストの成績が悪いと、平日または休日の外出禁止といった規制が設けられていました。

スペリングコンテスト

talent show

初日は、リスニング・ライティング・スピーキング・リーディングのテストや文法などを問うテストを行い、その結果に応じて学生それぞれに適する授業が決定されました。

授業編成についてですが、マンツーマン授業が５コマ、グループ授業が３コマ、自習が２コマでした。マンツーマン授業では、そのコマごとでリスニング・ライティング・スピーキング・リーディングに割り当てられ、配付された教材を中心に授業を行いました。グループ授業では、プレゼンテーションクラス・CNN クラス・英会話中心クラスの三種類の授業を受けました。プレゼンテーションクラスは、先生が指定するトピックについて自分なりに意見をまとめ、数人またはペアまたは個人で発表するという形式でした。学生数は 10 人から 15 人ほどの大人数で受講

する授業でした。英会話中心クラスは、先生が提示するトピックに関して自分の意見を話し、相手の意見も聞くといった比較的自由に発言することのできる授業で、学生数５人ほどの少人数授業でした。自習２コマの内、１コマはライティングと決められており、その時間内で一日一つ英作文を書きました。

また、授業を受ける建物内では英語以外の言語を話すと、一度につき罰金５ペソという規制が設けられ、母国語を話す学生がいないか探し歩く EOP がいたため、英語学習に最適な環境でした。

←学生寮（二人部屋）

３．ボランティア活動

８月 20 日には、CIA が二週間に一度行っているボランティア活動に参加しました。活動の内容は、子供たちが集まる場所へ行き、子供たちと一緒に遊んだり、お昼ご飯を食べさせたりすることでした。CIA 内で罰金として集められたお金は子供たちに募金されます。毎回ボランティア先は変わりますが、私が訪問した子供たちは、家がなく、その中の約 60%が親もおらず、Ludo cemetery という場所で暮らしています。食事も一日三回十分に食べることができている訳ではなく、私が出会った 10 歳の女の子は 10 歳とは思えないほど痩せていました。それでも子供たちは元気いっぱいで、私たちと一緒に遊んでいるときはとても楽しそうで、カメラをむけると必ず笑顔でポーズを決めてくれ、私の周りに寄ってきてくれました。年上の子供が年下の面倒を見る様子や、私たちが作業をしているとそれを手伝ってくれる様子も見受けられました。活動を終えて帰ろうとバンに乗り込むとたくさんの子供たちが追いかけてきてくれました。

←提供した食事

４．日本とフィリピンの違い

フィリピンではトイレットペーパーをトイレに流してしまうと水圧が弱く詰まってしまうため、備え付けのゴミ箱に捨てなければなりませんでした。また、学校やショッピングモール内に備え付けのトイレットペーパーがないため、持参する必要がありました。日本ではどこのトイレにも当たり前にトイレットペーパーが備え付けられているため無駄遣いしやすいのではないかと感じました。

また、交通規制が徹底されておらず、二車線しかないはずの車道でもバスやトラックが自由に走行するため、いつのまにか三車線になっており、信号や横断歩道も少ないため、歩行者が車道を渡るのはとても危険でした。バス停できっちりバスが停車するという訳ではなく、走行中のバスに飛び乗る人もいました。喫茶店などでは、お客さんがいる前であっても、店員さんは自由に食事をしてくつろいでいました。外を歩いているといたる所にたくさんの野良犬がおり、かなり痩せていました。

食事は野菜が少なく肉がメインでした。私は学生寮に滞在していたので、学校で出される食事を主に食べていましたが、そこでも必ず毎日肉が出てきました。フィリピンでは水に少し酸が混ざっており、飲むとお腹を壊してしまうため飲むことが出来ませんでした。

週末にタクシーに乗っていると、私よりも年下と思われる子供がタクシーの窓に顔を近づけて自分の売っているお菓子やジュースを買ってほしいとやって来ます。おそらく親がいないか、家庭が貧しいため歩き回っているのだと思います。

そして、CIA の先生のほとんどは、仕事を二つ掛け持ちしていました。給料が安いためです。8 時から 18 時までは CIA で生徒に英語を教え、その後はオンライン授業の仕事をして一日を終えるそうです。日本では一日 8 時間労働ですが、フィリピンでは給料が安いために日本人以上に働いていることを初めて知りました。

５．最後に

今回の留学をきっかけに私はこの 18 年間本当に小さな世界で生きていたのだと実感し、今まで出会ったことのないタイプの人間と関わり同じ時間を過ごすことで自分の考え方を変えることができ、将来の私にとって非常に良い刺激となりました。現地では、同じ日本人だとしても人生の先輩と関わる機会が多く、将来を見つめ直すきっかけにもなりました。好き嫌いにこだわらず、様々な人と関わることで知らないうちに私の元へチャンスが舞い込んできたり、自分の成長につながったりするのだと感じ、私の今までの行動を変えなければならないと思いました。日本で当たり前だと思っていたことは、一歩海外に出ると当たり前ではなく、日本への感謝の気持ちが芽生えました。また、日本が真似るべきこともたくさん見つけることが出来ました。現地で貧困問題に直面した際、心を痛めることが多く、これを機会に発展途上国の現状がどのようであるか調べようと思いました。もちろん英語を学ぶことを目的に留学し、自分の英語の能力を上げることができましたが、それ以上に得るものが多く、今回の経験は私にとって全てがプラスなものでした。

このような貴重な経験を得られたのも、国際交流基金の助成を受けることができたからです。ありがとうございました。